

高齢者を取りまくコミュニティの実態（鹿児島県笠沙町の事例）その5

－高齢者のつきあいと地理的条件からみた生活支援－

正会員○古川 恵子*2

同 友清 貴和*1

同 雪丸 久徳*3

高齢者 つきあい 地理的条件

1. はじめに

本稿は、前稿に引き続き、高齢者の日常のつきあいの内容を分析し、さらに地理的条件との関係から地方地域の高齢者の生活支援の要因を考察したものである。

2. 調査結果と分析

2-1. 日常のつきあいの内容

2-1-1. つきあいの相手の年齢と人数と間柄

つきあいの相手の半数以上が10歳以下の年齢差であり、一方、40歳の年齢差の人とのつきあいもみられる。つきあい方については、特に後期高齢者は年齢の離れた人に「してもらおう」ことが多く、「元気が声を掛けてもらおう」、「車に乗せてもらおう」、「力仕事をしてもらおう」、「緊急時に頼りにする」等多面的に支援されている。後期高齢者と前期高齢者のつきあいの相手数の平均値は3.9人と4.9人で、単身高齢者と、それ以外の人のつきあいの相手数は4.0人と4.5人である。全体平均は4.3人である。【表1】また、相手との間柄で最も多いのは（複数回答）、全体では「近所」（41.1%）である。

2-1-2. つきあいの内容項目と相互関係と頻度

つきあいの内容は精神的なものと物理的なものがある。全体の90%近くの人が「元気が声をかけたり様子を見たり」しており、その頻度は「ほぼ毎日」（54.3%）、「1, 2回/週」（32.6%）である。また、「作った花や野菜をあげる」「料理やいただきもののおすそわけ」という物理的なつきあいもよくされている。【表2】【図1】【図2】

表1. つきあいの相手の居住地 (人)

集落	市崎木場	松木場	高崎山	谷山	小崎	魚路	野間池	合計
回答者数	15	17	5	10	4	13	28	92
集落内	39	69	14	42	13	63	86	326
隣の集落	20	4	1	0	2	0	12	39
町内	2	10	4	1	3	2	4	26
町外	0	1	1	1	0	0	1	4
合計	61	84	20	44	18	65	103	395
友人数の平均	4.1	4.9	4	4.4	4.3	5	3.7	4.3

表2. つきあいの内容

精神的	物理的
1. 元気が声をかけたり、様子を見たり	10. 病気の時の看病
2. 相談したり、されたり	11. 病院への付き添い
3. (災害や緊急時で) 不安や心細いときの話し相手	12. 車に乗せてあげる、もらう
4. さびしくて人と話したいときの話し相手	13. 郵便物をだしてあげる、もらう
物理的	14. 薬をとってきてあげる、もらう
5. 作った花や野菜をあげる	15. 配達物をあずかる
6. 料理やいただきもののおすそ分け	16. 葬儀の手伝い
7. 代わりに買い物	17. 不在の時の花のみずやり
8. 力仕事の手伝い	18. 食事をいっしょにする
9. 家事の手伝い	19. その他

2-1-3. つきあいの相手の居住地

つきあいの相手の居住地は集落内に多く、つきあいは近所単位でよくなされている。

①幹線道路沿いに集落が広がり、近隣集落へのアクセスが容易な松木場では、集落全体のつきあいの相手数84人のうち、集落外のつきあいの相手数が15人でそのうち14人は近隣の集落居住である。【表1】回答者との間柄は、「以前近所だった」、「亲戚」、「同級生」がそれぞれほぼ同数である。

②国道から300~400m入り込んだ所にあり、一部急傾斜地で、他集落に通じる道路のない魚路では、車は集落内の途中までしか入れない。集落外のつきあいの相手数は2人（電話使用）である。

2-2. 集落内・外のつきあいの比較

2-2-1. つきあいの相手の人数と間柄

回答者92人中、集落内・外の両方につきあう人あげた人は(34/92)人(37%)で、そのうち9人は単身高齢者である。複数回答で集落外の相手数の合計は69人。そのうち、「してあげる」「してもらおう」「相互に行う」という関係にある人の合計は57人で、友人の氏名だけあげて、つきあいの内容の記述なしが12人である。

集落内・外のつきあいの相手の平均数は、各3.5人、2人である。集落外の相手数を集落別に比較すると、市崎木場、松木場、野間池が多い。この3集落は他の4集落と異なり、平坦地と緩勾配地からな

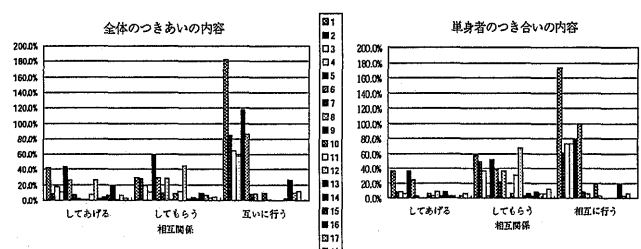


図1. つきあいの内容と相互関係

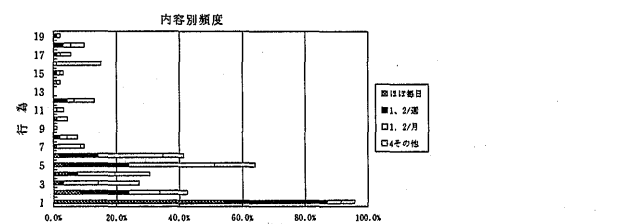


図2. つきあいの内容別頻度

A Study on the Community of Elderly people(using Kasasa-cho in Kagoshima prefecture as a Model)part5

The aspect of the living support for the elderly people from the view of the contact for elderly people by neighbor and the geographic conditions.

FURUKAWA Keiko, TOMOKIYO Takakazu and YUKIMARU Hisanori

る平面的な広がりがあり、隣接した集落がある。

34人の回答者と、つきあいの相手69人との間柄は(複数回答)、「親戚・兄弟姉妹」と「その他」(夫のつきあいの相手、昔同じ職場等)、「以前近所」が多い。集落内では「近所」(48.9%)、「親戚」(31.7%)である。集落により間柄の内容が異なる。市崎木場は野間池とともに「親戚」が多い。

集落外とのつきあいと集落内のつきあいの間柄の違いは、集落内では「近所」(48.9%)、「親戚」(31.7%)に対して、集落外では、「親戚」(38.4%)、「以前近所」(12.3%)であることである。

2-2-2. つきあいの内容項目と相互関係と頻度

集落外の相手と最もよく行われている行為は、多いほうから順に、「元気が声をかけたり様子をみたり」、「作った野菜や花をあげる」、「相談したり、されたり」である。

集落内との違いは、物理的行為より精神的行為の方がより多く行われていることで、とくに、「料理やいただきもののおすそ分け」(物理的行為)については、集落外の12.3%に対して、集落内は31.4%で差が大きい。また、集落外では「元気が声をかけたり、様子をみたり」を「相互に行う」ことが最もよく行われている。つきあいの方法については、全体の有効回答において、ほとんどが「直接会って」行われている。

2-2-3. 集落外のつきあいの相手との距離

高齢者の徒歩限界は徒歩15分から30分とする、距離は約1km^{*1}ということから距離1km未満と1km以上に分けて、集落外の相手とのつきあいの関係をみた。1km以上の相手の家に行くのか、相手が来るのか、行き来するのか、また、足が悪いという3人を含む単身高齢者の場合は特徴が見られるのか、分析した。

①つきあいの相手69人のうち42人(60.8%)が1km以上の距離に居住、27人が1km未満の距離に居住。

②1km未満の場合、おおよその平均値は600mである。

③1km以上の場合、高齢者だけを見ると、健康でも、足が悪い人でも約1200mまでは歩くか自転車で、一週間に1~2回行動している。自立して生活している上に、精神面や物理面でも他の高齢者を支援している実態がみられる。

④つきあいの方法と間柄との関係を距離との関係で見ると、1km以上では1km未満より「電話」が多く、特に「以前近所だった」人とは「電話」を使う人が(5/7)人いる。

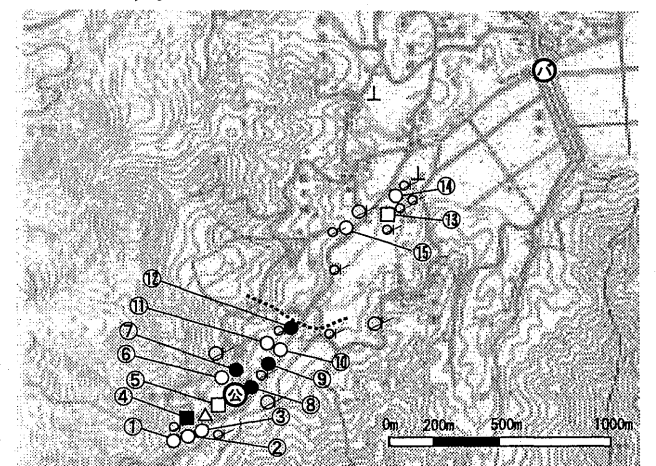
⑤遠距離であっても、畑に行くついでやお墓参りのついでに寄るといふ事例が多くみられる。高齢でも、自分達で畑仕事をする、毎日のようにお墓参りをする人がおり、行動的な生活をしている。【図3】

⑥自分が相手宅に行くのか相手が来るのかについては、高齢者宅に来てくれる人は26人で、高齢者自身が行くのは12人、自分が行ったり、相手が来たりは12人、電話だけが8人である。

⑦単身高齢者の場合は、一人暮らしを心配して相手が自宅に來たり電話をかけてくれると答えている。9人中、7人は、集落外のつきあいの相手は1人であるが、2人は、相手数が3人、4人である。目や耳が不自由な86歳の相手宅に行く87歳の女性は、毎日の墓参りの途中に寄っている。

3. まとめ

高齢者どうしの支援が行われており、また複数の人とのつきあいを確認した。精神的なつきあいが最もよく行われており、作った野菜や花をあげるという物理的なつきあいも次によく行われている。一方、集落の地形—平坦地や緩勾配等—により、高齢者の日常のつきあいの範囲は徒歩圏を超えて広がりがあることも確認できた。1km以上の遠距離間を行き来する間柄は親戚である場合が最も多い。遠距離でありながらもつきあいがなされていることと深い関係にあると考えられるのは、畑やお墓である。市崎木場をはじめとして、近隣や遠距離の畑や墓地が人々の交流の場となっており、畑や墓地が高齢者のつきあいの重要な要素であることがうかがえる。集落の施設の分散配置が、多少の距離を問わない高齢者のつきあいを促し、生活支援と深い関係があるといえよう。



□ 男性(非単身) ○ 女性(非単身) ⊙ 畑 ⊕ 公民館 △ 納骨堂
■ 男性(単身) ● 女性(単身) ⊥ 墓地 ⊙ バス停

図3. 市崎木場の畑・墓地

※1 鹿児島大学教授・工博

※2 鹿児島女子短期大学教授

※3 鹿児島大学大学院 博士前期課程

Prof., Dept. of architecture, Kagoshima Univ., Dr. Eng

Prof., Kagoshima Women's Junior College

Graduate school, Dept. of architecture, Kagoshima Univ.